

# 『余地』

～相談業務を楽しむ方法 24～

## ＜勉強会がもたらすもの＞

杉江 太郎

### ～やりたいと思っても～

英会話を習ってみたいと言った私に「1週間以内に始めないと、一生やらへんで」と団さん。（「アソブロックとは何だったのか」2022より引用）

英語を話せるようになりたい、引っ越しがしたい、ダイエットのために運動がしたいなど、人には様々な願望がある。しかし、「～したい」と言っているということは、それはまだ行動に移行しておらず、何も始まっていないことを指す。そして始まっていない状況は、長く続くものである。

私もそうであった。「団士郎さんのDVDを使った勉強会」という存在を知り、これいいなあと思っていたが、忙しさを理由に、中々行動に移していなかった。そんなときに、上記の文章を読んで、これではいかん、したいと思っているだけじゃ、一生しないなと考えを改めて、実際に勉強会の実施に向けて動き出した私の話を書きたいと思う。

「団士郎さんのDVDを使った勉強会」とは、アソブロック株式会社が事務局となり、団士郎さんの講演DVDを無料で

借りて、各地で勉強会の実施が出来るという取り組みである。気になる方は、「団士郎さんのDVDを使った勉強会とGoogleなどで検索してください。たぶん、今検索しないと、一生しないと思います。

### ～計画と立案～

まず、私の職場は行政機関である。そのため、その実施にあたっては、何事もまずは上司の伺いを立てることから始まる。いつ開催するのか、誰を対象にするのか、そして何よりも大切なのがその開催費用（予算）である。その点で言えば、この勉強会については、無料で行われているものであることから一番のハードルはクリアしたと言える。

次に大切なのが、どの時間帯にするかどうかということである。昔は、休日や勤務終わり後に自己研鑽を目的に、研修や勉強会に参加するということがあった。西に東にと、面白そうな研修があると聞けば、飛び回っていた。そしてそこで美味しいものを食べて帰るのが楽しかった。そのスタンスは今でも変わっていないが、皆がそうなのかと言われるとそうではな

いだろう。時代の変化と言われたらそうなのかも知れないが、休日や勤務時間後に、仕事を想起させる時間を過ごすことに抵抗がある人も多いのではないかと。私自身、半分趣味で研修に参加してきたが、周囲からは、度々、「休みなのに偉いね」と言われた。自分自身は楽しくて休日であろうが参加していたが、そうでない人もいるだろう。また、管理職の立場で言えば、勤務時間外に、このような勉強会を実施することは、仕事のためとは言え、手当を支給することについて快く思わない場合もある。参加する側は仕事として参加しているつもりでも、管理職から見るとそうではない、そうした齟齬を減らすためにも、また、なるべく多くの方に触れて欲しいと思っていたので、参加の抵抗を少しでも下げられるように勤務時間内で行うことにして伺いを回した。

予算という一番大きな課題をクリアしており、時間外勤務の対象にするか考えなくて良いという時点で山は越えており、そもそも DVD 自体も、数時間で終わる設定であるため難なく了解された。

そして参加者を募ったところ、意外と多くの方が参加を希望することになった。当初は、一日でと思っていたが、一度に一同が参加することのデメリットも考え、二日に分けて実施することにした。その旨を団遊さんに報告し、しばらくして手元に勉強会用の DVD が届いた。

### ～巡る思考～

今回は有志でするわけではなく、職場の人材育成を目的に実施をした。自身が年齢を重ねたこともあるが、職場全体を見渡すことになり、業界そのものが悪者探しをしているような風潮に流されていると感じる中で、少なくとも私の周りだけでも家族を軸に因果論ではない考え方に触れて欲しいという思いがあった。私は、10数年前に、団士郎さんの著書を読んでその考え方を知り今に至る。結果、少し長くこの業界で生きながらえている。勉強会の計画を立てている際、そのような思考が巡り、この辺りも実は、企画者側の策略なのではないかなんて考えていた。

それまで団遊さんとは何の接点もなかったが、(と言いながら、昔に団遊さんの声掛けの蜂蜜の共同購入に参加していた)勝手に戦略的に物事を判断される方だと勝手に認識していた。今回の企画は、送料などの料金さえも取らず、無料でDVDを貸し出すというやり方で、「タダほど怖いものはない」と教えられて育ってきた私にとっては、異質なものでしかなかった。それでもこの取り組みをするということは、団遊さんにとって何か意味があるに違いないと思っていた。家族の構造理論を広めるという目的はあるにせよ、企業がするという事は、全てをボランティア精神でしているとは思えず、常にどこに本質や意図があるのか、もしかして私自身が試されているのではないかと、そも

そもこうやって思考を巡らせること自体が畏にはめられているのではないかなんて考えていた。

実際のところ、企画者側がそこまで考えていたのかと言えば、それこそ聞いてみないとわからないが、まあ私の考えすぎというのがオチであろう。とは言え、この取り組みに応募したことで、私自身の思考が活性化されたのは事実であり、能動的な姿勢を強化することにも繋がった。まさにシステム論的な展開である。

### ～もたらしたもの～

この勉強会は、まず実施をしたいと意志を示し、そこから団遊さんとのやり取りが始まり、開催日時、参加者の属性、人数などの確認が続き、DVDの受け渡し、DVDの動作確認、そして、実施に当たっては、勉強会中の写真撮影や、アンケートの実施が条件であることなど手順が丁寧に定められている。

今回は、私自身の確認不足と、ちょうどそのタイミングで知った Google form を使いたい一心で勝手にアンケートフォームを取ってしまい、その後に企画者側が作った Google form があることを知り、参加された方には手間を取らせてしまった。そのおかげもあり、本来なら企画者側しか知ることの出来ない、参加者の感想を私自身も知ることが出来た。概ね好評であり、団士郎さんの言葉の力を感じた。そして、その勉強会をきっかけに、

二名の参加者が、すぐさま団士郎さんのワークショップの参加申込みをしている。公費での参加であり、自前でというわけではないが、この勉強会を通して興味を持ち参加に繋がっている。アンケートには、連絡先を入力する必要がある、希望する人には、ワークショップや出版に関するメールが届くとのこと。勉強会が各地で開催されるたびに、顧客が増え、その連絡先を得て、研修の案内を送る・・・今回実施しただけでも二名のお客様が生まれ・・・十分送料の分はペイ出来ている・・・そうか、これも戦略のひとつなのか！と感心した次第である。

この勉強会が私自身にもたらしたものは、先述した職場をより良くするための能動的な動きとそのことを巡って思考が活性化されたこと、それ以外にも、「役に立つ勉強会をしたぜ！」という、まるで自身が講師をして研修会を終えたような、虎の威を借る狐という名の達成感である。また、普段、業務に追われている中で、こうした開催が可能であるという余地が必要であることを再認識させてくれる。団士郎さんの威を借りた DVD を使った勉強会おすすめです。